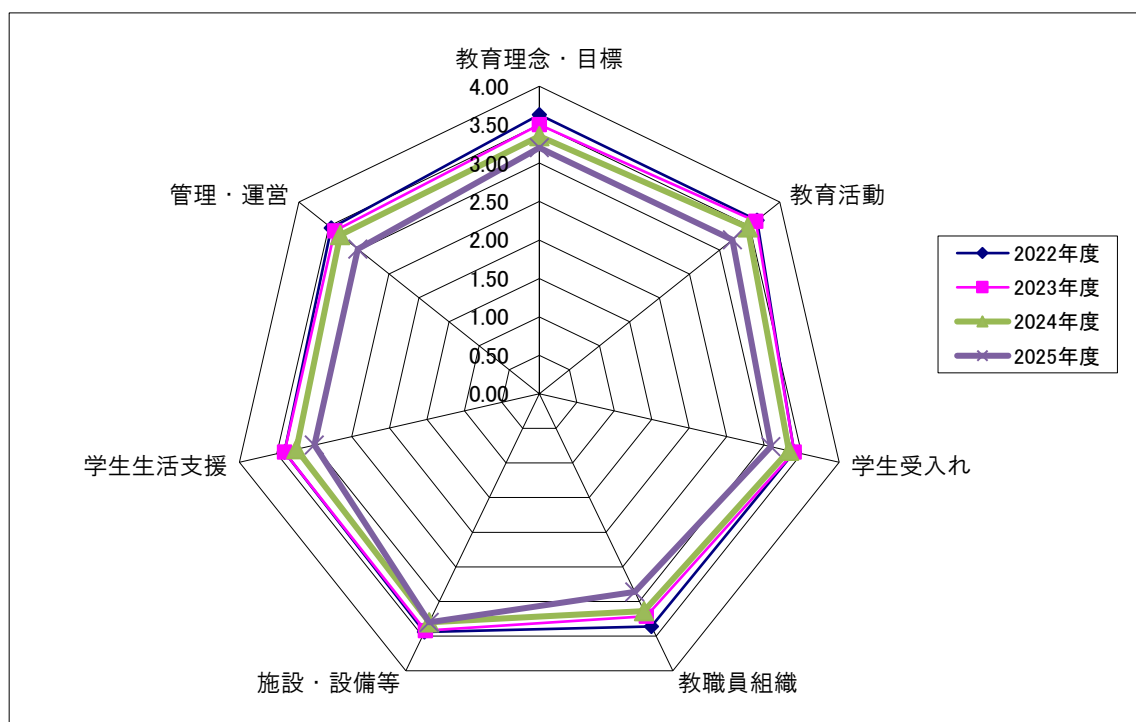


2025年度 医療ビジネス観光福祉専門学校 自己点検・自己評価

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育理念・目標	3.63	3.50	3.35	3.20
教育活動	3.62	3.60	3.47	3.21
学生受入れ	3.40	3.40	3.33	3.09
教職員組織	3.36	3.21	3.14	2.86
施設・設備等	3.44	3.42	3.30	3.30
学生生活支援	3.40	3.40	3.24	3.00
管理・運営	3.46	3.40	3.31	3.02
平均(4点満点)	3.47	3.42	3.31	3.10



総合評価

ほぼ全ての項目の平均のポイントが昨年よりさらに低い数字になっている。この前年よりポイントが下回っていることの原因として、初めに、学科の構成が変化したこと、留学生が大幅に増えたこと、それを基とする人員の手間が増えたこと、施設設備の老朽化などが挙げられる。

細かく項目ごとに分析をすると、まず、志願者状況・定員充足率については昨年の3.15から2.87に下がっている。これは定員数だけ見ると昨年と遜色は無いのだが、意識的には日本人がすべての学科において激減し、留学生がその分増えたことに由来していると思われる。広報は、昨年より独自の営業ポイントを見つけ、活発に稼働した結果、医療・ツーリズムビジネス学科は3.5倍、介護福祉学科に至っては3.7倍の倍率を出した。このように、学生の受入れに関して、一定数は確保したのだが、受け入れ体制のイレギュラーで想定し得ない細かい未整備なところが顕在してしまった。こうしたことから「学生受け入れ」のポイントを下げたのが要因である。

また、問題は教職員組織のポイントで、「資質向上のためのシステムは適切に構築されているか」で昨年の2.77からさらに2.73に下げたところである。これは、多くの教員は実務経験は豊かだが、教授法(教育の手法)などを学ぶ機会が少ないことと、留学生に対する対応力は言葉の問題より生活習慣から始まる忍耐強さが必要であることなど、いくつかの課題がある。今後、留学生が増大していく中で、これらの手法を同時に並行してスキルアップすることが求められるので、研修会などを活用していきたい。

留学生は、先述のように倍率を出しながら確保したのだから、日本語スキルは未熟でも、人物としては許容にかなった者たちなので、質の向上は間違いなく確保できている。とはいえ、そもそもの留学生を受け入れなければならない社会的な情勢や彼らの母国での教育環境や家庭環境、習慣、宗教、を理解し、いかに日本で長く働くことを支援するかを考えて行かなければならない。いわゆる「出稼ぎ目的」から脱却し、「日本で人のために役立つ」ことを目標として指導していく他にない。

以上の項目以外の課題にも常に目を向け、教職員全員で検証し、改善点を見つけ出し改善の実践を行うことで自己評価の向上に結び付けていく。